

新作いろは加留多

坂口安吾

青空文庫

いろは加留多には「ン」がない。多分ンで始まる言葉がないからだらう。ところが、四
 五年前、ンで始まる金言を発見したから、ついでに「いろは加留多」を作らうかと思つた。
 そのうちに忘れてしまつたけれども、又、正月が近づいたから、思ひだした。ンの金言を
 発見した次第は、次のやうなものである。

北原武夫が都新聞の文芸記者をやつてゐたときの話である。都の匿名欄には僕も時々書
 いてゐたが、題と匿名は編輯者に委せて、僕がこしらへたことはなかつた。

匿名も同じものを続けてゐると、忽ち看破られる。そのうへ知らない読者には、匿名だ
 けが一本立で歩くやうになり、書いてる本人は、ねぎめのいゝ話ではない。それで、ひと
 ころ、編輯者の方で、しよつちう匿名を変へてゐたこともある。

ところで、話は「アリマセン」の「ン」であるが、アリマセンなら何でもないが、ンだ
 け一つ切離して言つてごらんと言はれると、降参する。腹に力をいれて「ン」と言つてみ
 ると三分の二ぐらゐ風になつて洩れたやうで、甚だたよらない。つまり一語分の資格に欠
 けてゐるのである。だから、これを真正直に発音した方で、拍子が抜けて、「ン」の奴に
 馬鹿にされたやうな、間の抜けた感じなのだ。

ふと、このことに気がついたから、然らば、ひとつ、天下のインテリ共を「ン」の字でもつて翻弄し、みんなに「ン」の字を発音させて、厭世感を深めさせてくれたら、さだめし面白からうと考へた。雑作もないことだ。都新聞に「ン」の匿名で書けばよい。翌朝、僕がまだ寝てゐるうちに、厭世者が続出してゐることになる。そこで、原稿を拵へて、意気揚々、都新聞社へでかけた。

「ねえ、君」と、僕は得意になつて北原に言つた。「この匿名を読んでごらん。拍子抜けがするだらう。一人前の字ぢやないんだね。張合がなくて、甜なめられたやうな、なさけない気持ちにならないかね。だから、君、読者をみんな悩ましてやるのさ」

北原は原稿を睨んでゐたが、暫く黙然、怪訝な顔をしてゐる。

「これはウンといふ字だね？」

「え？」

「ウンといふ字ぢやないのか？」

北原は自分が間違つたのぢやないかと赧あからみながら言つたが、僕はピストルでやられてゐた。ンをウンと読む奴があらうとは！なるほど、ウンなら一人前だ。をかしくもなるともない。僕は意気消沈したが、世の中は北原ばかりぢやない。慌て者もゐることだから、

と、しみつたれた根性で、一回だけこの匿名を使ってしまった。いろは加留多の条件を覆す大金言を発見したのは、まさしく、この時のことなのである。

「ンをウンと読む利巧者」

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 03」筑摩書房

1999（平成11）年3月20日初版第1刷発行

底本の親本：「現代文学 第四卷第一〇号」大観堂

1941（昭和16）年11月30日発行

初出：「現代文学 第四卷第一〇号」大観堂

1941（昭和16）年11月30日発行

入力：tatsuki

校正：noriko saito

2008年9月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新作いろは加留多

坂口安吾

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>